

学校経営の全体構想

学校経営理念

- 関係法令・学習指導要領
- 福岡県教育大綱(ゆめ・未来・創造)
- 福岡県学校教育振興プラン
- 福岡県総合計画
- 福岡県教育振興基本計画
- 福岡県特別支援教育推進プラン
- 福岡県教員育成指標・研修計画
- 苅田町教育施策
- 苅田町の教育大綱
- 教育の今日的課題・社会要請

- 行きたい、行かせたいと言われる学校づくり
- 学校の課題を自覚した学校経営と教職員の力量向上
- 校長を中心にした組織的な学校経営
- 法規・法令・規則等に基づいた学校経営
- 基礎的・基本的知識・技能の習得を基盤とし、思考力・判断力・表現力の育成を図り、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性を涵養(新しい時代に必要資質・能力を育む学校教育)
- カリキュラム・マネジメントの推進による社会に開かれた教育課程の創造

- 保護者の願い
- 地域の願い
- 本校の教育の伝統

【学校教育目標】 「将来を生き抜く力」を培い、よりよい社会の実現に参画できる生徒の育成
【育成をめざす資質・能力】 言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力、自己理解・自己管理能力、人間関係形成能力、多様な他者と協働する力
【重点目標】 自ら課題を見つけ、情報を活用し、自らの考えを表現し、判断して、行動する生徒の育成

【生徒の実態】

- 規範意識 99% ○挨拶ができる 82% ○やり遂げる 93.9%
- 挑戦 77.2% ○他者を思いやる態度 96.4% ○授業の主体性 83%
- 情報活用能力が向上(R4年度末数値<R5年度末数値)
- 家庭学習時間2時間以上 29.8% ●自分で計画を立て学習 51.1%
- メディアセルフコントロール(生徒 47.4% > 保護者 36.9%) ●家庭の情報モラル教材活用状況 32.8%
- 1日 30分以上読書 29%

【めざす生徒の姿】

- 自ら課題を見つけ、情報を活用し、自らの考えを表現し、判断して、行動する生徒
- クラウドを活用(Chromebookを普段使い)した学習に主体的に取り組む生徒
- 夢や目標を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己実現を図ろうとする生徒
- 自らの命を守り、多様性を理解し他者への思いやりをもつことができる生徒
- よりよい人間関係を築き、地域や社会のために尽くそうとする生徒
- 心身ともに健康でたくましく、自己をコントロールしながら、社会の変化にしなやかに対応できる生徒

【めざす学校の姿】

- 挨拶が響き合い、落ち着いた学習環境の中で、生徒が安心して学べる学校
- 自他の命を尊重し、互いのよさや違いを認め合う心を育む学校
- 組織的・協働的に教育課題の解決に取り組む学校
- 社会の変動や要請に対応し、未来志向で変革をめざす学校
- 保護者や地域と連携し、協働する学校

【めざす教師の姿】

- 礼節をわきまえ、心身ともに健康な教師
- 職能成長の意欲をもち、情熱や使命感にあふれ、協調性のある教師
- 深い生徒理解に基づいて、生徒一人一人のよさを引き出し、可能性を伸ばす教師
- 主体的に研修に励み、実践的指導力の向上をめざし、ICTや情報・教育データを活用する力が身についた教師
- 教育公務員としての職責を自覚し、生徒や保護者、地域から信頼される教師

【豊かな心(人間性)】

- 自己有用感・規範意識を高める。
- 礼節を重んじる態度を養う。
- 生命を尊重し、互いのよさや違いを認める心情や態度を育む。
- 他者を思いやる態度や社会貢献する精神を醸成する。

【健やかな体(健康・体力)】

- 自分の心身の健康を保持・増進する態度を育成する。
- 運動習慣の確立、体力・運動能力の向上を図る。
- 生涯にわたって健康を維持できる基盤を醸成する。
- 合理的でかつ効率的・効果的な活動(持続可能な部活動)を推進する。

【資質・能力(確かな学力)の育成】

【何ができるようになるか】

- 各教科等の学びを関連付け、活用できる。
- 自己理解を深め、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択できる。
- 自律的に行動することができる。

【何が身についたか】

- 自分の考えを理由や根拠をもとに筋道を立てて説明する力
- 学び方を自己選択・自己決定(他者参照・途中参照・協働)し、自己調整する力
- 課題を設定し、情報を適切に収集・整理・分析し、表現する力
- 主体的、計画的に学びに向かう力

【何を学ぶか】

- 新学習指導要領に示された各教科等の目標及び内容(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」)

【どのように学ぶか】

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業
- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・改善」の授業スタイル
- クラウドを活用(Chromebookを普段使い)した複線型授業

【実現するために何が必要か】

- 授業改善のPDCAを回し、全教員による課題と改善策の共有化、教科間のつながりを意識した授業の構築
- 新学習指導要領を踏まえた教科及びキャリア教育を中心とした校区小学校との9年間の学びの連続性
- インクルーシブ教育システムに関する共通理解と専門性の向上、
- 保護者及び外部人材と連携した教育活動の充実

【本年度指導の重点】

- 自ら課題を見つけ、情報を活用し、自らの考えを表現する力を身につけた生徒の育成 【言語能力、情報活用能力】
- 命を大切にし、情報モラルを守り、自らを危険にさらしたり、他者を傷つけたりしない生徒の育成 【人間関係形成能力】
- メディアセルフコントロールを適切に行い、自分で計画を立てて2時間以上家庭学習に取り組む生徒の育成 【自己管理能力】
- 読書活動で、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにする生徒の育成 【言語能力、問題発見・解決能力、自己理解力】

【具体的な方策】

- 自分で考え方・解決方法・表現方法等を自己選択・自己決定し、個別最適な学びと協働的な学びを自己調整する場面がある授業。
- クラウドを活用し、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・改善」の学習プロセスを位置づけた授業。
- 「事例で学ぶNetモラル」教材の活用。「NetモラルCBT」「Netモラルeラーニング」教材の活用。「月一作文」と「1分間スピーチ」を全校で実践。
- 「生命の尊さ」「温かい心、思いやり、親切」「相互理解、寛容」を重点内容とした道徳科の授業の充実。
- AI教材キュービナや「家庭学習の計画・記録」のスプレッドシートを活用し、計画的な家庭学習(宿題・自主学習)の質・量を充実。
- 定期考査前に「メディアコントロール週間」を設定し、ゲーム・スマホ・YouTube等の利用時間を守る取組の推進。
- 「子ども読書の日」の読み聞かせの取組、図書館まわりの取組、朝読書の時間等の充実。

【本校が目指す特色化の方針・内容等】

『一人一人の学びを大切にできる学校、「行きたい、行かせたい」と言われる学校』の創造
 ~インクルーシブ教育システムの構築とクラウドを活用しながら「わかった」「できた」を実感する個別最適な学び・協働的な学びの実現を通して~